

特 集 琵琶湖水源域朽木トチノキ林の危機と保全

安曇川流域のトチノキ等巨樹の現状と役割

グリーンウォーカークラブ 青 木 繁

The present status of affairs and role, big trees of *Aeculus turbinate* in the basin of Ado-River. Shigeru Aoki (*Green Walker Club*)

はじめに

戦後、産業構造の変化と急激な都市化の進行は、山村地域の生活を大きく変えてしまった。また、近年、高齢化によるさらなる過疎化の進行により、集落のコミュニティの縮小・崩壊が大きな社会問題となっている。

今回、トチノキ問題の中心となった地域は、滋賀県北西部に位置する高島市の中でも、特に奥まった地域で、人口の減少と高齢化が特に大きい。本地域の多くの地区で、昭和30年代の人口との比較で、1/5~1/10近くまで減少している地区がほとんどである。

トチノキ伐採問題は、日本の山村地域が抱える様々な社会的問題が表面化した1つの典型的な現象であるとともに、山村の行く末を暗示するものでもあると言える。

また、トチノキ伐採が、単なる自然破壊の延長としての問題にとどまらず、人々が営々を築いてきた、生活文化そのものの崩壊・消滅にもつながる重大な出来事としてとらえることも必要である。

巨木と水源の郷をまもる会では、びわ湖源流の森である、びわ湖の水源域の森林保全をはかりながら、そこに生育するトチノキ等の巨木が地域に果たしてきた役割と価値を再認識し、自然を活か

した持続可能な地域づくりを目指した活動を行うことを目標としながら、トチノキ等の巨木調査を行った。

トチノキ生育状況調査地

安曇川は、京都市久多を源流とし、大津市葛川をへて、高島市朽木から新旭町、安曇川町へと流れる。この間、北川、針畑川、麻生川の3本の大きな支流が流れ込む。さらに、安曇川本流に対しても、多くの小規模な支流がある。

また、それぞれの支流は多くの枝谷を分かちながら、源頭に至る。今回の調査は、伐採問題の発端となった北川、針畑川を中心に、一部、安曇川本流筋の支流で調査を行った。

確認した巨木について

調査で確認した巨木は304本である。トチノキをはじめ、カツラ、ブナ、イヌブナ、クリなど19種に及ぶ。今回の調査は、谷部のトチノキを中心とした調査であるが、調査地に至るまでの尾根、山腹などで、見つけた巨木についてもあわせて調査を行った。確認したものの、多くはトチノキで237本、ついでカツラが28本見つかった。ブナ、イヌブナ、クリ、ホオノキなどは薪炭材として盛

んに利用されてきたこともあり、境界木として伐りのこされたものなどが見つかった。クリは、かつて朽木藩が6種の木として伐採を禁じたが、戦前戦後の枕木の需要の高まりとともに、殆どが消失してしまった。

トチノキの巨木について

トチノキの多くは、3m以上4m以下のものがあるが、6m以上のものも11本含まれ、さらに、内2本は7m以上のものであった(図1;表1)。

トチノキは、全国に巨木も多いが、7mを越えるものはそう多くはない。近畿・東海・北陸も巨

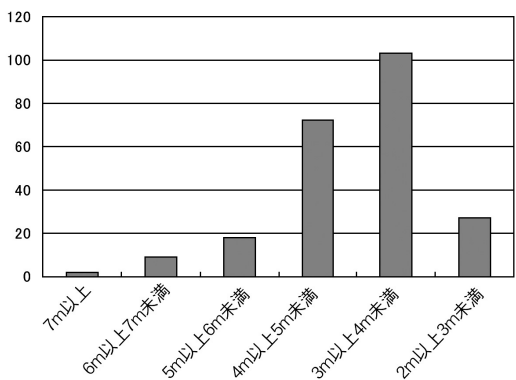


図1. トチノキ巨木本数.

表1. トチノキの巨木.

胸高周囲	本 数
7 m以上	2
6 m以上 7 m未満	9
5 m以上 6 m未満	18
4 m以上5m未満	72
3 m以上 4 m未満	103
2 m以上 3 m未満	27
その他	6
	237

木は多いが、その多くは、国や県の天然記念物に指定されている(表2)。

トチノキ伐採と巨木の存在価値

今回の調査で、多くのトチノキ巨木が確認できたことは、まさに、地域に眠る宝物の発掘であった。さらに、トチノキの巨木が高い密度で生育する、トチノキ巨木林の確認も大きな成果であった。巨木林は谷の源頭部に成立し、トチノキとともにカツラをまじえた溪畔林を形成する。ただ、周辺は、ブナやミズナラの2次林で、炭窯の跡が点在し、樹齢はせいぜい70年~80年といったところである。トチノキの巨木さが際立ち異様な景観が広がる。

これは、かつて、救荒食として山村の生活を支えたトチノキが、貴重な澱粉林として、現在まで守られてきたものであると考えられる。時とともに、山村の生活は大きく変化してきたが、トチノキ林の存在は、かつての山村の生活文化を伝える象徴的な存在であるといえる。

今回のトチノキ伐採は、地域の自然と生活文化に、様々な影響をもたらす。

表2. 朽木トチノキ巨木10選.

名 称	幹周 (cm)	樹高 (m)
1 能家の大トチ	720	25
2 平良の大トチ	700	32.5
3 雲洞谷の大トチ	692	25
4 大岩島のトチノキ	657	31
5 中の谷のトチノキ	634	30
6 ゆる谷の大トチ	630	18
7 荒谷のトチノキ	630	31
8 地藏谷のトチノキ	621	24
9 ゆる谷のトチノキ	618	23
10 小岩島のトチノキ	604	28

トチノキ巨木の伐採により予想される
さまざまな影響

- 水源の荒廃により、川の水質への影響は勿論、びわ湖の環境への影響が懸念される。
- 溪畔林の崩壊により、森全体の生態系に影響がある。
- 地域の母樹の喪失によりトチノキの再生が阻害される。
- 巨木の伐採は生態系に計り知れない影響がある。
- 昔から培われてきた、トチの実やトチノキ材を使った森林文化の衰退・喪失。
- 地域価値の減少により、新たな産業の創出の機会が失われる。
- 地域住民の山離れがさらに進む。



トチノキ巨樹の伐採をくいとめる必要がある

中でも、伐採とともに失われる地域の生活文化は、地域価値の低下をもたらし、地域の存在さえも否定しかねないものであると言える。

